

日本粉体工業技術協会分科会と粉体工学会部会の協働

Collaboration between APPIE Technical Committee
and SPTJ Division of Particulate Design and Preparations

浅井 直親*
Naochika Asai



冒頭から粉体工学会ではなく日本粉体工業技術協会（以後、粉技協と略称する）の話（宣伝）となり、恐縮ではあるが、筆者が代表幹事を務めている粒子加工技術分科会に少し触れさせていただく。粉技協には産学が協力し、技術分野別に13の単位操作・常置型分科会と7つの目的指向・プロジェクト型分科会の合計20の分科会が設けられている。なお、粒子加工技術分科会はプロジェクト型分科会として1985年4月に発足した。各分科会とも関心の高い企業様の工場見学や興味を引いていただけるような講演会を年に数回開催している。20の分科会があるので年間にして少なくとも40回は見学や講演会を提供していることになり、改めて振り返ってみると大変な開催数であると手前味噌ながら感心している。分科会ごとの特色を出しているため、参加者は多種多様な見学講演会から興味のあるものをチョイスでき、有益な情報に触れられる利点もあるのではとこれも勝手に思っている。また、多くの分科会では若手向けに「粉体技術者養成講座」と銘打った、講義だけでなく実習（デモンストレーションではなく、実際に装置を操作する）もできるセミナーを提供し、粉体技術の発展に寄与している。もちろん、粒子加工技術分科会も毎年、開催している。

粒子加工分科会（以後、分科会と略称する）は発足当時から粉体工学会製剤と粒子設計部会（以後、部会と略称する）と足並みをそろえて製剤技術発展を大きな目的の一つとして活動してきた。部会は岐阜薬科大学の竹内先生が部会長を務められ、副部会長を置き、大学の先生方や医薬および農薬の製剤メーカーで構成され、分科会の方は、正副コーディネータとして大学の先生方に就任いただき、医薬製剤メーカー、添加剤メーカー、装置メーカーで構成されているので製剤技術に対して全方位的にアプローチできるワンチームを形成していると考えている。筆者は2010年4月から分科会に参画させていただき、副代表幹事を経て、2018年4月に代表幹事を拝命した。

参画した当初は、分科会と部会の境目が分からない（感じられなかった）ため、この組織は分科会？部会？はたまた粉技協？学会？と少し混乱したことを覚えている。前述の通り両組織がワンチームとして活動している証左であると言える。これは全ての分科会に言えることではあるが、見学先や講演演者を検討するにあたり、各幹事から意見を募り、協議を重ねていく。ここに部会世話人の意見が加わることによって、より充実した見学講演会へと仕上がっていく。概ね、見学講演会開催前の2回～3回の幹事会にて協議し、その間に下見もさせていただき本番当日を迎える。準備については基本的に分科会幹事が担当するが、見学先との関係上、部会からも担当幹事を選出するなど柔軟に対応している。参加者は毎回ほぼ60名となり、見学や講演の質疑応答はいつも時間が足りないほどに活発である。以前に開催した見学講演会の参加者から粉技協事務局を通じてコメントをいただいた。「競合会社が集まり、とても白熱した質疑応答が交わされていて少し驚いた」とのことであった。主催する側として非常にうれしい限りである。

冒頭に代表幹事を務めているなどと申し上げたが、諸先輩方のご尽力によりこのチームの雰囲気や活動フローはできあがっており、筆者はそのレールの上を辿っているに過ぎない。筆者は各見学講演会の担当幹事を指名するだけで、下見、案内文作成、見学講演会の役務等々が出来上がっていくため、筆者は要所要所で確認する程度であり、それもほとんどはコーディネータに確認していただいている。チーム内の親睦度は深く、幹事会後の懇親会では異常なほどの盛り上がりを見せる。業務のご都合により幹事や世話人を退任する際に挨拶するときなどは少し寂しさを感じるのは筆者だけではないだろう。一歩外に出るといわゆる競合でありながら、有益な情報を交換し、チームに入ると強い結束力を発揮する大したチームだと感心しきりである。徹頭徹尾、手前味噌の話ばかりで読者の皆さんにおかれては不快感を覚えられたかもしれないが、分科会活動をひいては部会との協働での活動を知っていただきたく乱文駄文であるが、述べていただいた。我々の活動は粉体を扱っている方々に少しはお役に立てていると信じてこれからも部会と協働し継続する所存である。読者の皆様からフォローがいただければ幸甚である。

（著者紹介）

1990年不二パウダル入社 技術部配属。2007年開発部に転属。2016年ダルトンに転籍。2017年3月大阪府立大学大学院 工学研究科 物質・化学系専攻 化学工学分野 社会人博士後期課程修了。現在 ダルトン執行役員 開発・技術統括部 統括部長
専門：粉体機械開発・設計およびプロセスの最適化
* 連絡先 n-asai-q2jx@dalton.co.jp